

コウノトリ



毎週月曜日更新

カタカタ通信

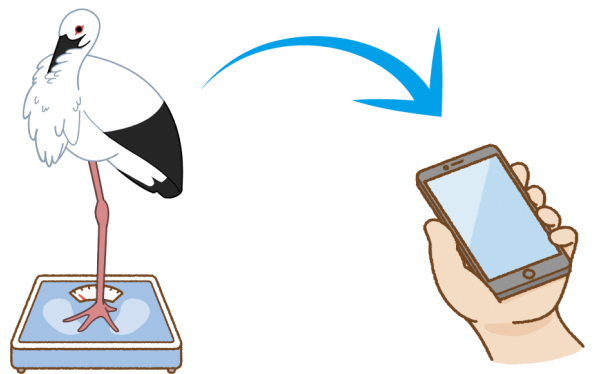
第164号

2025年2月17日

「コウノトリの体重測定作戦

～10kgの重りが欲しい～」

前回のあらすじ。コウノトリの体重を日常的に量る方法を考えていたところ、データを後でスマホに転送できる体重計があることを知った私たち。さっそく、コウノトリに乗ってもらおうと、飼育スペース内に置くとあっさり乗ってくれたので、体重計を回収して確認したけど、なぜかデータが転送されない。どうやったら使えるようになるんだ！？今回は体重測定作戦、後編です。



スマホにデータを送りたい！

作戦3 問題を調べる

データがなぜ転送されないのか、体重計にいろいろな物を乗せて探っていると2つ問題があることに気づきました。

まず人用のため、①コウノトリの重さでは自動でスタートし測定してくれないことは、すぐに気づきました。そしてもう一つ、②体重と同時に体脂肪率も測定しないとエラーが出てしまう問題もありました。飼育ケージ内に体重計を置くときは、木の箱に隠しているので、体脂肪率がはかれるはずもありません。ここからどうすればいいのか、実験が始まります。

作戦4 体脂肪率の問題を解決する

まず、体脂肪率を測定したと体重計が判定してくれるようにすることから考えました。ここがエラーのままではどうしようもありません。

体重計がどのように体脂肪率を測定しているか調べてみると、電極から微弱な電流を流し、その電気抵抗値を測定していると書かれていました。

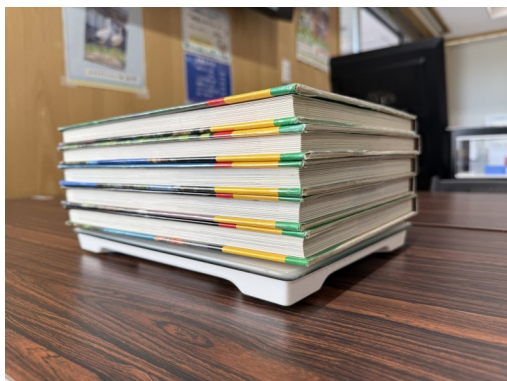
つまり、「すこしでも電極間に電気が流れれば測定できるかも！」と考え、電気が流れそうな針金を電極に当ててみました。すると体重計から“ピピッ！”と音が、エラーではなく成功した音が鳴り、1つ目の問題をクリアしました！



体重計に針金をつけた！

作戦5 10kgの重りを探す

いちばん時間がかかった気がするのは、コウノトリの重さで自動スタートさせることです。コウノトリが体重計に乗ったとき、勝手にスイッチをオンにして体重を量ってほしいのですが、そのためには15kg程度の重さが必要でした。コウノトリの重さは約5kg。まず試験的に、10kgくらいの図鑑を体重計の上に積み重ねてから、軽く押してみます。すると少ない力で体重計が反応してくれました。「なるほど、10kgの重りに乗せておけばコウノトリが乗ったときスタートするはず」まずは、10kgの重りを探すことにしました。



体重計に図鑑を乗せて実験



ダンボールに重石を隠したけど、
乗ってくれなかった

事務所や倉庫の中を見て回りましたが、ちょうどいい重りが見つかりません。大きすぎても体重計に乗りきらないし、目立つとコウノトリが気にして乗ってくれないだろうしと、いろいろな物を乗せて試していました。何かいい重りはないかと考えながら過ごしていたある日、飼育ケージ内を眺めていると、とあるものにコウノトリが乗っていました。そう“丸太”です。少し前に飼育ケージ内に置いていた丸太に、空（♂）や花（♀）が時々乗っては羽づくろいをして過ごしていました。「丸太なら体重計の上に乗るし、10kgありそう！」さっそく10kgくらいの丁度いい丸太を探し、体重計の上に置きます。コウノトリは乗ってくれるかなと見守っていました。何日か経った頃、パッと飼育ケージ内を見ると丸太の上に立つ空の姿がありました。空が丸太から降りた頃に、少しそわそわしながら体重計を回収しに行きます。データ転送のボタンを押して待っていると、測定結果が転送されました。丸太の重さを差し引いて計算すると、空の体重がわかるはずです。その重さはなんと“5.4kg” 天空の里にきた時より600g増えてました。「ちょっと増えてるじゃん！」と思いながらも、5kgくらいの体重だったことに安心していました。その後、花も丸太に乗り、体重が“5.2kg”だとわかりました。



試行錯誤の末、なんとか量れるようになったコウノトリの体重。コウノトリの健康管理に少し役立てられるようになりました！

※人用の体重計を使用しています。メーカー推奨の使い方ではないため、真似しない方がいいかもしれません。

体重を量れるようになりました！

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：佐藤